

教育学教育における学士力の考察

※ 教職課程にとどまらない教育学の幅広い領域を想定し、検討したものである。

【到達目標】

1. 学びの意義と教育の必要性を論理的、分析的に説明できる。

【コア・カリキュラムのイメージ】

教育哲学、教育倫理、教育原論、教育史、教育思想など

【到達度】

- ① 「学ぶ」ということについて、以下の段階で論理的に説明することができる。
 - (A) 自らの体験(教育体験、教育を受けた体験の両方)から「学ぶ」ことの自分なりの意義を具体的に説明できる。
 - (B) ①で行われた「学び」に関する学問的な裏付けを、教育学に関する様々な文献や資料を用いて論理的、分析的に説明できる。さらに、過去の教育実践や教育思想に学び、教育の現代的課題への教訓として用いることができる。
 - (C) 自らが所属する(もしくは今後所属する予定の)集団にとっての意義のある「学び」というのはどういったものかを論理的に説明できる。(企業、学校など個人々々によってそれぞれの集団がある)
- ② 学びの意義、教育の必要性を他者に伝えることができる。
- ③ 自ら学ぶ力(課題解決力)を有している

【測定方法】

- ①は、上記の(A)～(B)の各段階をそれぞれ論述または発表させることにより、確認する。
(A)はその具体性、(B)は学問的裏付けの論理性、(C)は自分が所属する予定の集団の関係者を交えるなど、他者の評価を踏まえた上で確認する。
- ②は、学んだことを理解した上で、ディスカッションやディベート等を通して自分の意見を述べさせることにより、確認する。
- ③は、自ら研究テーマを設定し、その解決に向けて取り組ませ、成果(卒業研究、ゼミ論等の作成)を発表させることにより、確認する。

【到達目標】

2. 実態に応じた学びを教育としてデザイン(設計、実施、評価、改善)できる。

【コア・カリキュラムのイメージ】

教育心理、臨床教育、教育内容、教育方法、教育工学、教育メディアなど

【到達度】

- ① 学習者の意欲、能力などを多面的、客観的に把握することができる。
- ② 学習者の実態に即した学習目標や学習方法のデザインについて論理的に説明できる。
- ③ 学習を効果的に進めるために、教育指導の理論と技術を活用できる。
- ④ 学習過程で他者の意見を聴き、自らの実践を反省し、改善案を作成することができる。

【測定方法】

- ①は、模擬的な学習場面を想定したロールプレイング等を用いて把握の度合いを自己・他者評価させることで確認する。
- ②及び③は、実際の学習場面を想定した学習計画案を作成させることで確認する。
- ④は、学習実践記録、改善案等を作成させることにより、確認する。

【到達目標】

3. 直面する課題や問題に自らが積極的に関心を持つことができる。

【コア・カリキュラムのイメージ】

教育社会学、教育行政、教育行政、比較・国際教育、生涯学習、臨床教育学など

【到達度】

- ① 教育に関する時事問題について常に関心を持っている。
- ② 地域社会、グローバリゼーション等広い視点から教育問題を理解し、分析できる。
- ③ 現代の教育課題について自分の考えを示すことができる。

【測定方法】

- ①～③は、変動する社会の教育課題について、ディスカッション、フィールドワークや教育ボランティア等を通じて問題の所在を分析し、自分の考えを示せるかどうかを論述形式、観察法などにより、確認する。

【到達目標】

4. 教育学を学んだ者としての責任と義務について、その重要性を自覚できる。

【コア・カリキュラムのイメージ】

教育法学、教育哲学、道徳教育、生涯教育、教育行政学など

【到達度】

- ① 日々の生活において教育学を学んだものとしての自負を持ち、学び続けることができる。
- ② どのような職種においても教育の重要性を踏まえて社会生活を営むことができる。

【測定方法】

- ①～②は、卒業後の進路においてどのように大学で学んだことを活かしていくか、将来像をレポートにまとめ発表させることにより、確認する。